

ボランティア活動

松楠会小豆支部 永井 勝也

教職 38 年、退職後、小豆広域行政事務組合に勤務し、6 年間は視聴覚ライブラリーに、4 年間は適応指導教室で不登校の児童生徒の指導に携わり、平成 13 年にやめました。

今まで地域のために働いていないので、何か地域に役立つことはできないかと考えていたとき、内海町で観光に関する講座が開設されたので受講しました。講習が終わったあと、みんなで観光ガイドをする会を立ち上げようという話になり、平成 14 年 10 月に設立総会をして「小豆島観光ボランティアガイドクラブ」ができました。

このクラブが結成されて 10 年を迎えました。最初の頃は、二十四の瞳映画村・寒霞渓表 12 景・裏 8 景のガイドを、予約の団体客について案内をしていました。数年して会員数も増えてきたこともあって、道の駅オリーブ公園のガイドもするようになり、最近は連休などに待ち受けガイドも実施して、観光客を積極的に案内しています。

瀬戸内芸術祭が開催された年には、池田港・草壁港で待機して、芸術祭に来島された観光客の案内役を務めたりしました。

平成 23 年 11 月に、壺井栄の小説「二十四の瞳」を語り継ごうと制作された紙芝居を、小豆島町出身の町田忠次さんよりボランティアガイドクラブへ寄贈を受けました。この紙芝居を、二十四の瞳映画村にある分教場 1 年生の教室で、観光客の多い連休などに実施しています。まだ始めたばかりですし、紙芝居を担当してくれる会員が少ないために、思うようには活動できていません。

オリーブ公園（道の駅）では、オリーブに関する説明や眼下に広がる田浦にある岬の分教場や丸金、竹生的一本松などについて、観光客の時間に合わせて案内しています。平坦な道なので、あまり苦になりません。寒霞渓は表 12 景の登り 2 km の歩きガイドになりますので、案内しながらの登りはかなりの重労働に感じるようになり、息切れもするようになりました。

ボランティア活動が、自分の生きがいとなり健康保持にもなっています。その上、観光客との出会いもいろいろな収穫があり楽しみの一つです。

微力ながら、島ために役だっているという自負もあって、体力の続く限りもうしばらくボランティア活動を続けていこうと思っています。

(学芸・昭和 28 年卒)